



千葉市議会議員(中央区選出)

三井みわこ 議会報告



未来の福祉をこの街に!

昨年の市議会議員選挙から早いもので、1年が経過いたしました。この1年間、議会において高齢者福祉・介護、障がい者の就労支援など質問して参りました。これからも千葉市を本当に「住みやすいまち」にするため、市民の皆様の声、現場の声を市議会に届けて参りますので、よろしくお願い致します。



平成24年 第2回定例会市議会報告

去る、平成24年6月7日から26日まで、第2回定例会市議会が開かれ、今回は、3つの項目(地域リハビリの推進、口腔機能向上、広報事業の推進)について、当局に一般質問を行いました。以下、概要をご報告いたします。

1. 地域リハビリテーションの推進について

「千葉市高齢者保健福祉推進計画・介護保険事業計画」で策定された地域包括ケアは、様々な問題が指摘されています。今後、千葉市でも増える独居高齢者、老老介護に対しても、結局は多くの時間帯で家族の介護や見守りがなければ生活できないものです。特に今後、75歳以上の方が増えてくることで、医療的なリスクが高い方が増え、介護の問題と直結する大きな課題が出てきます。

脳卒中などを発症し、その後介護状態になることは、介護保険受給者のデータからも見てとれ、特に男性の前期高齢者では、脳卒中の後遺症によ

り、突然、介護が始まるが多くなっています。今、脳卒中などで命を救われた患者さんが、回復期リハビリ病院へ転院できないケースは、決して他人事ではありません。また、地域での生活を維持させていくには、介護保険による通所リハビリや訪問リハビリも少ないのが現状です。

超高齢社会を迎える千葉市において、今後は急性期医療施設、その後方支援としての回復期リハビリ施設、地域におけるリハビリテーションが、ますます重要となってきます。



質問

現在の千葉市における回復期リハビリ病棟の状況について、どのように当局は認識されているのか。また、地域リハビリテーションの現状について、千葉市も参加している「千葉県脳卒中リハビリテーション協議会」では、具体的には、どのようなことを検討しているのか。

答弁

協議会は、これまで脳卒中患者の発生状況、ケアマネジャーと医療機関との情報交換の実態把握などの調査を行ったほか、「かかりつけ医とケアマネジャーが相互の連絡を円滑に行うための連携シート」や「訪問リハサービスに関わるリーフレット」などの作成、普及に取り組んできております。

質問

当協議会で作成した連携シートやリーフレットの活用が図られ、医療と介護の連携が進むことを期待しますが、今後、どのように地域リハビリテーションの連携に取り組んでいくのか。また、今年度は、「あんしんケアセンター」が増設されますが、リハビリテーションの必要な方への支援について、センターではどのように考えているのか。

答弁

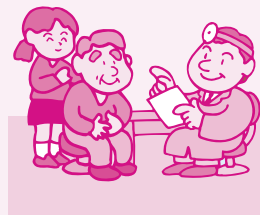
今後は、「県脳卒中リハビリテーション協議会」での成果をもとに、千葉リハビリテーションセンター、医師会、あんしんケアセンターなど、本市を含め、地域リハビリに関係する多くの団体が参加している「千葉地域リハビリテーション連絡協議会」において、連携を推進して参ります。また、「あんしんケアセンター」による支援についてですが、ケアマネジャーがリハビリの視点を持って介護予防ケアプランの作成や個別相談に対応できるよう、研修会等を通じ支援して参ります。

2. 口腔機能の向上について

千葉市は、「いきいきあんしんプログラムに取り組もう!」として、65歳以上の方へ、「基本チェックリスト」を送付し、「いきいきあんしんプログラム」への参加を促しております。この中では、運動機能向上や栄養改善に加え、口腔機能の向上を図るためのプログラムを提供する「元気アップ教室」や「元気アップ相談」が行われています。介護保険制度は、予防重視型のシステムに転換が図られ、介護予防サービスとして、運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、閉じこもり予防・支援、認知症予防・支援、うつ予防・支援が実施されることになりました。中でも、口腔機能向上は、「明るく活力ある超高齢社会」に貢献し得るとして、その重要性が高まっています。

平成23年8月、歯科疾患予防等による口腔の健康の保持・推進について、総合的に施策を推進するとして、歯科口腔保健法が成立しました。特に、高齢者の口腔機能向上は、日常生活全般に大きく影響し、内科疾患の関係、咀嚼機能と老化・認知症との関連が指摘されています。住民が生涯を通じた最適な歯科・口腔健康医療サービスを受けられる環境整備が進むことを期待しますが、昨今、口腔機能向上の重要性が指摘される一方、市民意識はまだまだ低いのが現状です。

また、独居など的高齢世帯の割合も増加することで、在宅や介護を必要としている高齢者も、積極的に歯科にかかることができる施策が必要です。



質問 「口腔ケア」「口腔機能向上」に関する認識を定着させることは必要であり、特に高齢者にとっては、身体機能の向上のためにも重要であるが、どのように認識しているのか。また、基本チェックリスト送付の結果、いきいきあんしんプログラムに参加した高齢者の「元気アップ教室」及び「元気アップ相談」における口腔機能に関する参加と相談の状況と、今後、どのように口腔機能向上に取り組むのか。



質問 歯科医療を受けることが困難な障がい者や要介護認定等を受けた在宅高齢者などに対しては、どのようなサービス、また、予防的な対応は、どのようにされているのか。

答弁 高齢者をはじめとした一般市民に対して「口腔ケア」等に関する認識を定着させることについてですが、広く市民に周知して行くことが大切であると考えております。特に、高齢者にとって、口腔機能が向上することは、単に歯周病の予防や身体機能の向上に資するだけでなく、食べる楽しみを得ることで生活の意欲が高まり、積極的な社会参加にも繋がることから重要であると考えております。

歯の健康に関する市民へ普及・啓発の取組みについてですが、これまで、様々な機会を通し、市民への普及・啓発に取り組んで参りました。

これらの取り組みの評価・検証につきましては、本年度中に分析を行った上で、千葉市健康づくり推進協議会において審議し、その結果を次期健康プランに反映させる予定としております。

「元気アップ教室」についてですが、今後、要介護状態となるおそれがあると認められた方を対象として、歯科医師による口腔機能の評価を受けていただくことや、口腔ケア等を含めたプログラムを提供する元気アップ教室等への参加を勧めております。本年度から新たに、口腔機能訓練に特化した「歯っぴー健口教室」を実施するなど、引き続き、高齢者の口腔機能の向上に向け取り組んで参ります。

答弁 歯科医療を受けることが困難な障がい者や介護を必要とする高齢者などに対する支援策についてですが、一般の歯科診療所での治療が難しい高齢者や心身障害児・者に対しては、千葉市歯科医師会などの協力により、原則毎週木曜日に休日診療所において、歯科診療を行っております。

また、通院が困難な方については、訪問歯科診療事業により、在宅の歯科医療の確保に努めているところです。

このほか、予防的な対応については、各区保健福祉センター健康課において歯科衛生士を配置し、歯科相談や家庭訪問等により、口腔ケアや口腔機能向上のための支援を行っております。

3. 広告事業の推進について

政令市移行を契機に、毎年、税収を大きく上回る予算編成がなされてきた結果、市債残高は増加し、今後、市債の償還がピークを迎えようとしている中、平成25年度の収支は、既に108億円の財源不足が予測されています。千葉市財政健全化プランは、この先、最も厳しい数年間を乗り越えるため、計画期間内の取り組み項目や、達成すべき数値目標を設定し、その達成状況を毎年公表すると共に、プラン策定後においても見直すべき点は見直し、新たな取り組みについても積極的に取り入れていくとされています。

かつての経済成長が望めない現在、市税収入の大きな伸びは今後も見込めず、新たな自主財源の

確保を模索する必要があるでしょう。他の自治体の中には、自治体が保有する資産を最大限に活用し、新しい手法に基づいた取り組みを実践しているところも多く出ており、中でも、広告事業は多くの自治体で実施されています。

政令指定都市の堺市や、千葉県の松戸市、佐倉市、銚子市、東金市では、市の公用車への広告掲載が取り組まれています。現在、千葉市が保有する公用車の内、広告掲載が可能な公用車は502台です。ましてや千葉市財政健全化プランでは、「今後、自主財源の確保として、新たな広告媒体の掘り起し、広告料収入の更なる確保に向けた取り組みを強化する」と謳われています。

質問 自主財源の確保としての取り組みで、当局の考えていらっしゃる新たな広告媒体とは、どのようなものを想定されているのか。また、一部の県内自治体で既に実施されている公用車の広告掲載に関し、どのように取り組むのか。

答弁 新たな広告媒体として本庁舎及び区役所への広告付き案内板の設置やエレベーター内広告などに取り組むとともに、引き続き、広報誌、封筒などの印刷物やネーミングライツなどの広告媒体についても更なる掘

り起しを行い、広告料収入の確保に取り組んでまいります。

公用車への広告掲載については、今後、個々の公用車についての広告掲載の可否や、市場ニーズを踏まえた導入効果について検討してまいります。

質問 新規の取り組みとその効果額として、広告事業収入全体では、どのくらいの収入額を見込んでいるのか。

また、例えば、地下道の柱や公園のベンチ、マンホールの蓋や路上花壇等々、千葉市は、既存の広告媒体の掘り起し以外に、新しい媒体を開発される考えはないのか。

答弁 広告事業収入全体的見込み額についてですが、計画期間である22年度から25年度において、ネーミングライツや広告印刷物、バナー広告などの広告料収入として、12億9千万円を見込んでおります。

次に、今後、新たな媒体を開発していく考えはないのかについてですが、市場におけるニ

ーズを把握するため、広告代理店へのヒヤリングを実施してまいります。また、道路や公園のベンチ等の公有財産への広告掲載については、道路法などの関係法令や屋外広告物条例などの規制があることから、他都市の実施状況等を踏まえ、掲載の可能性について検討してまいります。

《平成24年第2回定例会結果報告》 第2回定例会が終了しました。(6月7日～6月26日)

平成24年第2回定例会は、6月7日に開会され、6月26日に閉会しました。本定例会では、市長提出議案16件(専決処分3件、補正予算案1件、条例案5件、一般議案4件、人事案件3件)、議員提出議案8件(条例案1件、意見書7件)が審議されました。また、陳情4件が審査されました。

その結果、市長提出の全ての議案については、全会一致もしくは賛成多数で原案どおり可決・承認・同意され、議員提出議案は、条例案1件が原案否決、意見書7件が原案可決されました。また、陳情は1件が採択送付、3件が不採択となりました。



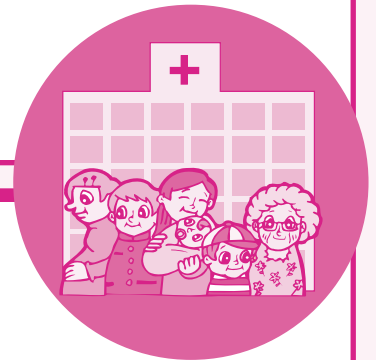
《意見・要望》

1. 地域リハビリテーションについて

脳卒中等の疾病に対する急性期医療の体制の充実、命を守るという意味では一番重要なことですが、今後、市民の生活を守るという観点から、今まで以上に、回復期リハビリテーション、地域リハビリテーションの重要性は高まります。

しかし、脳卒中などにより、麻痺などの事態となっても、誰もがリハビリテーションを十分に受けることができる体制、住み慣れた在宅での生活を維持すること

ができる体制が整っていて、初めて安心な暮らしができます。切れ目のない医療と介護、それに加えて、回復期リハビリをはじめとした地域リハビリテーションを充実させることは、忘れてはならない施策です。是非、積極的に回復期・地域リハに関する施策を、推進されることを期待します。



2. 口腔機能の向上について

国や地方自治体は、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小、歯科疾病の予防、生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上、定期的な歯科検診または歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科・口腔保健、歯科・口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備を図る義務があります。

すべての市民が住み慣れた地域で、生涯を通じて必要な歯科保健医療サービス

を受けられるよう、千葉市も積極的な取り組みを推進する必要がありますと思われる。歯科口腔保健法の義務付けは努力義務ですが、千葉県は全国の自治体の中で4番目に条例を制定しています。千葉市も、是非、総合的に効果的に施策を実施していただくことを希望いたします。

3. 広告事業の推進について

公有財産の有効活用を図る広告事業は市民の資産の有効活用です。また、行政が広告媒体を提供することで、地元の中小企業や商店の経済振興にも繋がるメリットもあります。先進的取り組みを行っている自治体では、広告事業をより広く、市民サービスの向上や地域の活性化をも念頭においた官民連携の一手法と捉えて、自治体の資産である広告媒体の活用を通して、行政・企業・市民が共にメリット

を得られるような取り組み、さらには、民間のビジネス活動を通じて市民サービスの向上と地域の活性化を図る事業として展開しています。

今の千葉市に必要なのは、既存の枠に囚われず、チャレンジする施策提言や実行能力です。既に実施されている有休地の効率的な利用貸付などと合わせ、是非とも危機感を持って臨んでいただきたいと思っております。

三井みわこ

プロフィール Profile

- 1971年 生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年 NPO法人ハートケアゆーあい(障がい者の施設)設立
- 2003年 聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
- 2006年 NPO法人政策塾「一新塾」(熊谷市長と同期)卒塾
- 2007年 社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる

皆様からのご意見・ご要望がございましたら、こちらまで。

発行: 三井美和香

千葉市中央区登戸1-11-13-203

TEL: 043-216-5432 FAX: 043-216-5433

E-mail: mm@mitsui-miwako.com

Twitter: twitter.com/mitsuimiwako



三井みわこで

検索

URL: <http://www.mitsui-miwako.com/>

*三井みわこは、教育未来委員会、少子高齢社会問題調査特別委員会に所属し活動しています。